

第4回熊本地方会 活動報告

テーマ : 医師事務作業補助者のアプローチ
~医療の質向上へ/タスクシフト・シェア~
開催日時 : 2024年7月13日 (土) 14:00-16:40
開催場所 : 熊本医療センター 研修センターホール
現地およびZoomウェビナー配信



開会挨拶 熊本県支部 世話人 日高 道弘 先生 (熊本医療センター)

本日は、みなさまお忙しい土曜日の午後にたくさんお集まりいただき誠にありがとうございます。今年度より医師の働き方改革が本格的に始まりました。医師事務作業補助者のみなさまはタスクシフトシェアの担い手として大きな活躍をされています。また医療の質向上にも大きな役割を果たしていただいております、今や不可欠な存在になっています。このような地方会を自ら企画して開催し、みなさまの職種をブラッシュアップしていこうとされている努力の賜物であり、大変素晴らしいと感じています。



講演1として成尾整形外科病院の成尾理事長から、講演2はにしくまもと病院の林名誉院長からご講演をいただきます。事例発表としては再春医療センター、熊本赤十字病院、くまもと県北病院からご発表いただきます。

最後に事務局方々、支部長には尽力いただき、敬意を表します。ありがとうございます。
約3時間にわたりますが、どうぞよろしく願いいたします。

講演1 『当院における医師事務作業補助者の役割と質向上への取り組み』

座長 米満 弘一郎 先生 (熊本機能病院 理事長/熊本県支部顧問)

講師 成尾 政一郎 先生 (成尾整形外科病院 理事長)

病床数103床

常勤医師9名

非常勤医師1名

医師事務作業補助者

(常勤) 7名

(勤続年数3年以上5名)

医師事務作業補助者体制

加算 1 20対 1

2016年から算定

当院は開院40周年の節目を迎えるにあたり、病院の理念や誓い等を分かりやすく整理し、職員が具体的に行動できるよう

明文化していくために「クレド」を作成しました。「クレド」はラテン語で「約束」「信念」「信条」を表します。心で納得し、自ら実践できるような「クレド」を作成するためにチームを立ち上げ、職員全員からの意見を集め、何度も議論を重ね「クレド」が完成しました。作成した「クレド」を信念として患者様が安心できる医療を提供してまいります。患者さんや医療スタッフだけでなく業者さんとも互いにリスペクトして業務を行ってまいります。

当院の医師事務作業補助者の主な業務は、外来陪席補助、診療情報提供書下書き、回診時カルテ代行入力、学会症例登録、診断書作成などです。

人事考課を年2回実施(管理職は役割評価も実施)し、ワークライフバランスとして「部署間打合せ」「多様な勤務体制」など多彩な勤務シフト、育児時間に合わせた勤務時間の設定を行っています。

医師アンケートでは「総合」、「書類作成」、「外来診察時」全てにおいて100%満足という結果でした。知識、技術の共有を行うことで医療の質向上を求められています。協会のアンケート結果でも院内教育体制がある施設の方が負担軽減効果があるとされており、当院でもカンファレンスの参加、質評価のベンチマークへの参加、学会発表、他県の整形外科単科の研修会での情報共有、資格取得を推進しています。

課題は、病棟業務への対応です。コミュニケーション能力が大事と考えられ、課題解決に向けて、カンファレンスを行っています。患者・職員にストレスをかけない円滑な診療体制の構築が労働意欲の向上につながり、それが医療の質向上につながります。

医師にとって医師事務作業補助者は「チーム医療」に必要な存在と言いますか欠かせない存在となっています。医師事務作業補助者のみなさま、いつもありがとうございます！

院内には「ありがとうの木」を作っており、感謝の気持ちを言葉で表現し、ありがとうの言葉がつづられた葉で茂っています。



講演2 『理想の医療秘書を求めて』

座長 日高 道弘 先生（熊本医療センター 副院長／熊本県支部世話人）
講師 林 茂 先生（にしくまもと病院 名誉院長）

病床数146床
常勤医師12名
医師事務作業補助者7.5名
医師事務作業補助者体制
加算1 50対1
2008年から算定

私が医療秘書を知ったのは「日経メディカル経営版

1985昭和60年夏号」に紹介されたことがきっかけです。

関東地方の96床の整形外科病院で「医師がいるところ、必ずMSがいる病院」ということで、9人の男性秘書が救急処置/手術室、病棟、外来で医師に密着し刻々の変化を注視し紙カルテ用紙に記録されていたそうです。レセプト関連で威力を発揮してまいりました。MSにはそれぞれ担当科や担当医師がおり医師のクセ、患者の経過を現場でみているので、かなり思い切った発言ができたようです。MSの仕事というのは、医師や看護師を雑用から解放し、持てる医療技術をフル発揮してもらうことです。気心の通じたMSであれば医師に回診を促すこともあります。大学からの若手医師派遣時には「あそこに行ったらMSに聞けばよい」と言ってくれます。

1960昭和35年鹿児島医師会「MS教育」通信教育から始まり、1966昭和41年日本医師会会長は「開業医が真に必要なとするMSメディカルセクレタリを要請する必要がある」と述べていました。当時は看護師や事務職が医師の補佐を兼務していました。医療の高度化に対応し、看護師は専門的な看護業務を遂行、事務は業務の複雑さにより事務に専念しました。そこで看護師や事務職ではない専門的な医療秘書が必要となったわけです。

わたしの病院長時代の医療秘書10年間の活動では、訪問診療同行（医師+医師事務作業補助での同行は全体の69%）、産業医同行、医師面談同席などを行いました。医師事務作業補助者が在宅医療にかかわることのメリットは、専門職が専門に特化できる（時間の有効活用）、医療費の請求漏れを限りなく減少する（コスト管理）、在宅を知ることで広い視野が育つ（モチベUP）ことです。医療秘書が潤滑油として間に入ることで医療・介護連携が非常にスムーズになりました。

これからの医療・ケア（介護・福祉）連携では、真の多職種専門職間連携・協働IPW（Inter-Professional Work）が求められます。佐藤秀次先生も患者・家族と専門職をつなぎ、多職種からなるチーム医療を提供するコーディネータの存在を医療秘書が担い、医療秘書の重要な部分とおっしゃっています。医療秘書は感性・怒を持って患者と医者、医療・介護関係者などをつなぎ、行動を起こさせる重要な役割を担う医療専門職になってもらいたいと思います。

厚労省は人生会議をすすめています。人生会議とは家族会議、最期まで自分らしく生きるための話し合いです。もしもの時に自分が望んでいる医療・ケア等について前もって考え、家族や医療・介護の人たちと繰り返し話し合って共有することです。地域包括システムにおいて医療機関、介護施設、行政の間をつないでほしい役割です。本人が望むことを知らないと必要時に適切な支援はできません。医療秘書には患者さんの想いを叶えることができるように、支援する仕組みを作るコーディネータになっていただきたい。

理想の医療秘書とは、医療・介護にかかわる知識をもち、コミュニケーション能力、コーディネート能力が必要で、地域と病院、患者・家族と多職種をつなぐ架け橋「つなぎ人」となり地域包括ケアシステムの構築に貢献していただければと思います。活躍の場を広げてください。みなさまのこれからの活躍に期待しております。



事例報告 医師事務作業補助業務の紹介

コーディネータ 熊本県支部 世話人 白石 貴之（熊本機能病院）
演者1 草場 亮介様 （再春医療センター）
演者2 勇川 麻衣様 （熊本赤十字病院）
演者3 西山 友梨様 （くまもと県北病院）



各医療機関から業務の取り組みや工夫点、課題などについてご発表いただきました。

医師事務作業補助者の雇用形態は非常勤、派遣、常勤など医療機関で異なりますが、各医療機関の役割にあわせた幅広い医師事務作業補助業務が行われていました。これまでの業務に加え、救急医療管理加算オーダや特定共同指導後には指導料の診療記録記載補助の強化、医科歯科連携情報提供書作成などの新規業務を開始されていました。また、業務改善では、麻酔管理料算定漏れ防止として麻酔科の術前診察時の診療記録記載補助に取り組みされた結果、50ポイントも増加したと報告されました。

そのほか、アンケートを実施し医師事務作業補助者の業務満足度などを調査されたり、ジョブローテーションを行い、各診療科マニュアルの随時見直しも実施しているとのとこでした。

課題は離職率が高いことが挙げられ、職員の定着のため、年度毎にグループ目標・個人目標の設定および評価で効果測定を行い、キャリア育成プランが作成されるなど解決に向けた体制づくりを構築するなど日々挑戦することを意識し、業務に取り組まれていることが印象的でした。

ご発表施設の院長先生からのメッセージで「AIではできない人と人のかかわりに力を発揮して血の通った連携のキープレーヤーとして活躍してほしい！」とエールをいただきました。

ご発表後には、現地とWeb参加者みなさんで今回の熊本地方会のテーマでもあるタスクシフトの進め方や業務の見直し、日頃疑問に思っていることなどについて質疑・応答の時間を設けました。AmiVoiceを用いた診療支援を試験的に開始し、医師および医師事務作業補助者の負担軽減にも取り組んでおられる施設さんの事例を共有いただいたり、とても有意義な時間を共有することができました。

閉会挨拶 熊本県支部 支部長 園田 美樹（熊本医療センター）

本日はお忙しいなか多くの方々にご参加いただきましてありがとうございました。ご講演ならびに事例発表をいただきましたみなさまにはそれぞれ準備から本日まで本当にありがとうございました。

ご講演では医師事務作業補助者に対する力強いエールをいただき、事例発表を含め各施設さんで医師事務作業補助者が活躍されている事例をお聞きし、ブラッシュアップができたのではないかと思います。ご参加のみなさまの新たな気づきや学びにつながれば幸いです。最後に熊本地方会を開催するにあたり格別のご尽力をいただきましたスタッフのみなさまに深く感謝いたし、第4回熊本地方会閉会の挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

